

在宅療養多職種連携のための

よこすかエチケット集

Ver.4

右の二次元コードを読み取ると、
横須賀市ホームページ「よこすかエチケット集」の
ページが開きます。



キーワードは、

『い』『ろ』『は』『に』『す』『めし』『しょ』『く』『どう』！



企画 地域ケア会議及び
在宅療養連携会議

発行 横 須 賀 市

令和7年（2025年）3月

*****「よこすかエチケット集」に使用したイラストについて*****

このエチケット集に描かれた数々のイラストは、エチケット集作成ボランティアとしてVer.1 作成時のワーキングにご参加いただいた株式会社スマイルさんが、「よこすかエチケット集」のために、ご厚意でお描きくださいました。

したがいまして、このエチケット集に描かれたイラストの著作権は、株式会社スマイルさんにありますので、無断転載は禁じます。

在宅療養連携推進「よこすかエチケット集」 もくじ

はじめに	1
在宅療養連携推進のためのエチケット	
I. 基本的な多職種連携のエチケット	2
II. 入退院時の多職種連携エチケット	4
III. 在宅での多職種連携エチケット	8
参考資料	
退院前カンファレンスシート	12
よこすかエチケット集の作成・改訂の経過及び Ver.4 改訂メンバー	14

* 本書では、多職種が気持ちよく連携できるようにお互いに気をつけるべきこと、守るべきこと（マナー、ルール、エチケット）をまとめて「エチケット」と呼ぶこととします。

はじめに

横須賀市は、平成 23 年度から在宅療養を支える多職種の連携推進に取り組んでいます。取り組みを進めることで、顔の見えるネットワークが広がってきました。

それでも、職種や職場が違えば仕事内容も立場も違います。時には、意思の疎通がうまくいかなかったり、誤解が生じたりします。

異なる職種が連携するときに、明確なルールが決まっていないこともあります。在宅療養には、医療・介護の多職種のみなさんのスムーズな連携が必要です。

異なる職種がお互いの立場を理解し、思いやりをもって行動することで、相互の信頼関係を深め、気持ちよく仕事をするにつなげるのではないかと思います。

このエチケット集は、市民の在宅療養を支える多職種のみなさんが連携する際に、相互に知っておきたいマナー、気をつけたいエチケットを文章化してまとめたものです。社会人として当たり前の基本的なエチケットから、意外と気づかない事柄まで、さまざまな角度からピックアップしています。

令和元年度の Ver. 3 に続いて、Ver. 4 を作成しました。今回は、地域ケア会議及び在宅療養連携会議の入退院・在宅療養連携専門部会で検討して見直しを行い、地域ケア会議及び在宅療養連携会議の全体会で承認されたものです。今後も、みなさんからご意見・ご提案・アイデアを随時募集し、使いやすく、充実したものにしていきたいと思ひます。

新規に仕事に携わる方はもちろん、ベテランのみなさんも是非、ここに集めたエチケットをご確認いただきたいと思います。当たり前のことばかりではなく、さまざまな職種が他の職種に求めている項目もありますので、改めて気づくこともあるかもしれません。横須賀で在宅療養を支える医療と介護の関係者、そして病院スタッフのみなさんにも、気持ちよく連携できるよう、このエチケット集をご活用いただきたいと思います。

横須賀市は、引き続き、住み慣れた地域で療養したいという方が、在宅での療養・さらには看取りという選択ができるように地域包括ケアシステムの深化・推進を進めて参りますので、今後ともご協力をお願いいたします。

令和 7 年（2025 年）3 月
地域ケア会議及び在宅療養連携会議 入退院・在宅療養連携専門部会

在宅療養連携推進のためのエチケット

I. 基本的な多職種連携のエチケット

すべての職種のみなさんへ

1. お互いに思いやりをもち、ていねいな対応を心がけましょう

(解説) 職種により立場、制度、関連する法律、必要な情報が異なります。お互いの専門性や各職種の立場を、思いやりをもって理解し、ていねいな対応を心がけましょう。お互いに非難をしないで気持ちよく仕事をしていきましょう。相手に失礼のない身だしなみも大切なエチケットです。

2. お互いに日常的な情報交換を忘れずにしましょう

(解説) 電話では、一般的なマナーを守り、内容をあらかじめまとめ、連絡をとりましょう。また、都合の良い連絡方法（メール、電話、FAX、メッセージアプリ等）や窓口、時間帯をお互いに確認しておきましょう。

3. 他職種に連携をとるときにはどの程度急ぐ用件か判断して連絡しましょう

(解説) それぞれ時間が限られた中で仕事をしています。急ぐ用件でなければ、ゆっくり対応できるのでゆとりができます。どの程度急ぐ用件か判断して連絡しましょう。

4. 本来の業務を超えるお願いには気を付けましょう

(解説) 各職種のお互いの専門性や業務内容を理解して、本来の業務を超えたお願いをしないように心掛けましょう。

5. 名前はフルネームで伝えましょう

(解説) 利用者のお名前は間違えないようにフルネームで呼びましょう。事業所の担当者についても同姓の方もいますのでフルネームで連絡をとりましょう。

6. 担当者不在時の体制を整備しておきましょう

(解説) 緊急時も含め担当者不在時の連絡体制は事業所ごとに整理しておきましょう。代理の職員を決めておいたり、連絡があったことを確実に担当者に伝えられる体制を整えておきましょう。

7. 専門用語や略語を使うときは相手に配慮し、わかりやすい言葉を使いましょう

(解説) 医療職も介護職も、自分の業種以外の専門用語や略語には慣れていません。専門用語や略語を使うときは、相手に配慮して説明を加えるなど、わかりやすく、ゆっくり、はっきり説明しましょう。

8. すべてのハラスメントに対して医療・介護・福祉のいかなる場面でも毅然とした対応をとりましょう。

(解説) 私たちはあらゆるハラスメントを許しません。ハラスメントであると感じたら必ず相談し、組織の垣根を超えて解決しましょう。患者または家族による妥当性を欠いた要求や、社会通念上不相当な言動（威圧、暴言、暴行、脅迫等）から、職員を守り、毅然とした対応をとりましょう。

医師・歯科医師のみなさんへ

9. 書類は読みやすいように作成し、照会には早めに回答しましょう

(解説) かかりつけ医師の書く書類として、主治医意見書、訪問看護指示書、訪問薬剤指導指示書などがあります。書類は、読みやすい字で書きましょう。また、多職種からの照会にはなるべく早めに回答しましょう。

10. 書類には、病歴や服薬の状況のほか、生活のことを含めて書きましょう

(解説) 書類には、病歴と共に服薬の状況を書くと良いでしょう。また、生活のことも含めて書くと介護サービス事業所の参考になり、スムーズな支援につながります。『い』『ろ』『は』『に』『す』『めし』『しょ』『く』『どう』に着目して書くと良いでしょう。

『い』：移動

『ろ』：ふろ

『は』：排泄

『に』：認知症

『す』：睡眠

『めし』：食事

『しょ』：行っている医療処置

『く』：定時薬と屯用薬

『どう』：介護指導、栄養指導、薬剤指導、リハビリ指導の内容と計画



ケアマネジャーのみなさんへ

11. 医療機関、介護施設等への訪問の前に面会の約束をとりましょう

(解説) 医療機関や介護施設等では面会の約束のない訪問には、対応しにくい場合があります。

受診の付添いなどの主治医等に会える時間を活用する工夫をすると、お互いの時間の節約になる場合もあります。

II. 入退院時の多職種連携エチケット

すべての職種のみなさんへ

12. 退院前カンファレンスシートを活用しましょう

(解説) 在宅療養連携会議で作成した、退院前カンファレンスシートを活用しましょう。

このシートの活用で、スムーズなカンファレンスの進行と退院準備を目指します。退院前カンファレンスを開催できないときは、シートのチェック項目だけでも確認しましょう。

カンファレンスシートはあくまで目安です。必要な情報は都度違うので、時間や参加者等に応じて項目を修正しましょう。

※退院前カンファレンスシートは 11～12 ページに掲載しています。

以下の横須賀市ホームページからもダウンロードできます。

https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2610/zaitaku/conference_sheet.html

あるいは検索サイトで「横須賀市退院前カンファレンスシート」を検索してください。



13. 横須賀市医師会が作成する「医師のための『在宅医療ハンドブック Part2』」も活用しましょう

(解説) 医師だけでなく、在宅療養に関わる多職種のみなさんが読んで参考になる内容が盛り込まれています。

以下の横須賀市医師会ホームページからもダウンロードできます。

https://www.yokosukashi-med.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/05/zaitaku-handbook_2.pdf

あるいは検索サイトで「横須賀市医師会在宅医療ハンドブック Part2」を検索してください。



14. サマリーは介護サービス事業所間で共有しましょう

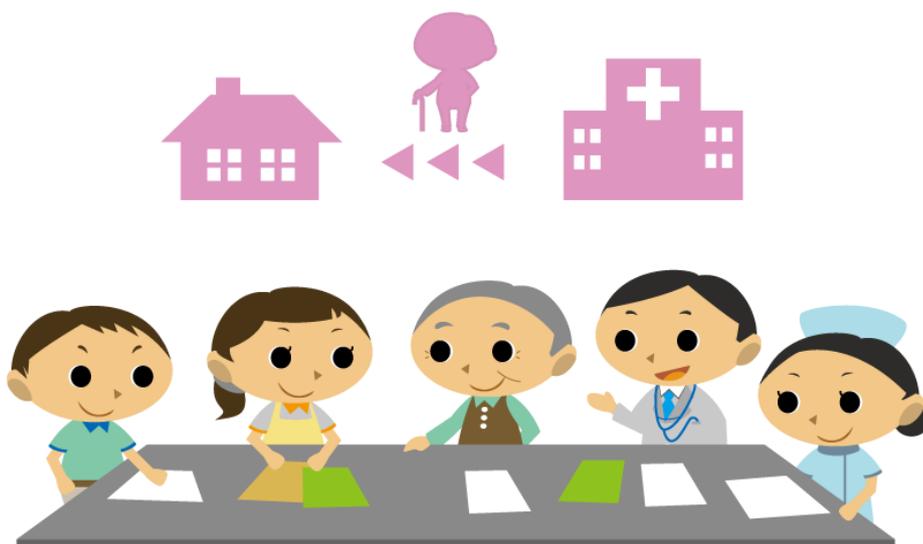
(解説) 病院から看護サマリー、リハビリ施設間連絡票、薬剤情報提供書を入手した場合には、ケアマネジャー、訪問看護ステーション、薬剤師など関係職種間で情報共有できると、利用者の状態が把握しやすくなります。

個人情報の取扱いには細心の注意を払いましょう。

病院のスタッフのみなさんへ

15. 退院前カンファレンスには、できるだけ全ての関係職種へ声をかけましょう

(解説) ケアマネジャーだけでなく、できるだけ全ての関係者や地域で支援してくれる人に声をかけましょう。特に、医療介入が多い場合には訪問看護ステーションが出席できるように調整しましょう。(次ページの退院前カンファレンス参加者一覧参照)



【参考】退院前カンファレンス参加者一覧

*必ず全ての職種にお声がけするものではありません。

状況に応じて、必要な職種にお声がけをお願いします。

参加者一覧	
1	本人、家族、親族
2	病院職員 (医師、退院調整看護師、MSW、病棟看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、 管理栄養士)
3	在宅医療関係者 (医師、歯科医師、訪問看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士 等)
4	介護保険事業所(ケアマネジャー、訪問介護、福祉用具、通所介護)
5	医療機器業者
6	成年後見人 (親族、市民後見人、弁護士、司法書士、社会福祉士、行政書士、その他)
7	地域包括支援センター職員
8	地域の支援者(友人、民生委員 等)
9	民間サービス事業者

【参考】オンラインカンファレンスのエチケット

- ・表情がわかるよう、マスクを外せる環境であれば外しましょう
- ・照明は明るくし、映り込む背景に留意しましょう
- ・5分前には入室し、時間厳守で開始しましょう
- ・欠席または遅刻するときは事前に伝えておきましょう
- ・氏名と所属を表示し、基本的に顔出しで、開始・終了時は挨拶をしましょう
- ・初回会議の際は、参加者全員で自己紹介を行ない所属も伝えましょう
- ・カンファレンスシートなどは事前に共有し、カンファレンスの流れに沿って進行しましょう
- ・他の参加者が話す場合はマイクをオフにしましょう
- ・質疑応答の際は、1問1答で簡潔に話すように心がけましょう
- ・挙手ボタンを使用し話し出すタイミングをわかりやすくしましょう
- ・質問や途中退室のときは、チャット機能などを利用しましょう
- ・時間の目安は30分までとし、次回の日程を決めてから終了しましょう

16. 退院患者に訪問診療が必要と判断される場合、まずかかりつけ医師に訪問診療について確認しましょう

(解説) 普段訪問診療をしていなくても、かかりつけの患者の場合には訪問する医師もいます。

17. 退院前に本人や家族等へ介護指導・栄養指導・薬剤指導・リハビリ指導をしましょう

(解説) 退院前にできるだけ本人や家族、支援者等へ介護指導・栄養指導、薬剤指導、リハビリ指導をしましょう。

退院までに時間がなく、介護指導が十分ではない場合には、病院でどの程度まで介護指導ができていないか介護サービス事業所へ情報提供しましょう。

18. 退院日の目処を早めに関係職種に知らせましょう

(解説) 退院前カンファレンスなどはある程度準備に時間がかかるため、早めに目処が分かれば調整しやすくなります。

19. 退院後の在宅療養に関するサービスについては担当のケアマネジャー（地域包括支援センター）に相談しましょう

(解説) 在宅医療・福祉サービスは、手配から提供までに時間がかかるものもあります。特に退院前カンファレンスが開かれない場合は、ケアマネジャー（又は地域包括支援センター）に相談してもらえると助かります。

医師・歯科医師のみなさんへ

20. かかりつけ医師は、緊急で患者を病院に紹介する場合、入院判断の際に必要な情報を病院へ伝えましょう

(解説) 入院時の病診連携は、退院時の病診連携に繋がるので、病院にお任せではなく、できるだけ早く情報を提供しましょう。

Ⅲ. 在宅での多職種連携エチケット

すべての職種のみなさんへ

21. 情報共有の方法を決めましょう

(解説) 複数の事業所が関わっている場合、他の事業所がどのようにサービス提供しているか、ノート、情報共有システム(かもめネット)※、リンクパスポート(よこすかリンクパスポート)※などを利用して情報共有しましょう。ノートを利用する場合にはサービス提供時必ず目を通し、確認した証として、日時・所属・氏名を記載しましょう。

また、都合の良い連絡方法(メール、電話、FAX、メッセージアプリ等)や窓口、時間帯をお互いに確認しておきましょう。

※情報共有システム(かもめネット)

横須賀市医師会によるITネットワークを利用した在宅医療・介護情報共有システム(カナミック)

※リンクパスポート(よこすかリンクパスポート)

かかりつけ医や病院医師、関係職種が、在宅医療の患者さんの治療経過や療養状況、関係者の連絡先などの情報を共有するために、横須賀市医師会が作成しているA4版・蛍光色のファイル(在宅医療・介護連携ノート「よこすかリンクパスポート」)

こんなツールもあります

「適切な意思決定支援にかかる指針」(横須賀市医師会作成)

人生の最終段階においては、本人の意思が最も重要であり、その意思を尊重し尊厳ある人生を全うできるよう支援する医療・ケアの提供が求められています。

横須賀市医師会では、患者さん向け意思決定支援シート「あなたの意思を伝える」を作成しました。上記の「よこすかリンクパスポート」の13・14ページにあります。

また、以下の横須賀市医師会ホームページからもダウンロードできます。

「適切な意思決定支援にかかる指針」のご案内

<https://www.yokosukashi-med.or.jp/archives/4682>



人生会議/アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning)とは将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取り組みのことです。(日本医師会公式サイトから抜粋)

22. 訪問時間はお互いのできる限り守りましょう

(解説) 訪問時間がずれて他のサービスと重なると、報酬算定が難しくなる場合や次の訪問先に影響が出る場合があります。お互い出来る限り訪問時間を守りましょう。

訪問時間がずれてしまうことが分かった場合は早めに連絡をしましょう。

サービスが重なっても大丈夫な場合もあります。情報共有を図りたい場合など訪問時間を重ねたいときは事前に連絡を取りましょう。

23. 看取りの時は家族の揺れる気持ちを多職種で支えましょう

(解説) 本人が元気なうちから、もしものときどうするか確認し情報共有しながら、本人や家族を支えましょう。在宅看取りが近づくと家族の気持ちは大きく揺れます。揺れる気持ちを多職種で理解し、看取りの時期には特に気をつけて、密に情報共有を行いましょう。

ケアマネジャーのみなさんへ

24. サービス担当者会議は関係職種に声をかけましょう

(解説) 都合がつかず出られないこともありますが、なるべく連絡するようにしましょう。

緊急でない場合の担当者会議は予め十分な日程調整を行い、家族や介護サービス事業者を含めてケアプランに位置付けた事業所がなるべく出席できるようにしましょう。

(次ページのサービス担当者会議参加者一覧参照)

【参考】サービス担当者会議参加者一覧

*ご本人と居宅サービス計画上の職種の参加は、基本となります。

*必ず全ての職種にお声がけするものではありません。

状況に応じて、必要な職種にお声がけをお願いします。

参加者一覧	
1	ケアマネジャー又は地域包括支援センター職員 ※主催者
2	本人、家族、親族
3	介護保険事業所（訪問介護、福祉用具、通所介護）
4	医療関係者 （医師、歯科医師、訪問看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士 等）
5	医療機器業者
6	成年後見人 （親族、市民後見人、弁護士、司法書士、社会福祉士、行政書士、その他）
7	地域の支援者（友人、民生委員 等）
8	民間サービス事業者
9	ボランティア

25. 急変時の対応を、あらかじめ本人、家族等と相談しておきましょう

(解説) かかりつけ医師は、緊急を要する症状や状態などをあらかじめ介護サービス事業所へ知らせておきましょう。また、急変時の対応方法などをあらかじめ本人、家族等と相談しておきましょう。

26. 薬の処方は計画的にしましょう

(解説) 納品までに数日かかる薬があります。

薬剤師からの疑義照会の可能性も考慮して、早めに薬剤師に連絡しましょう。



様 退院前カンファレンスの流れ

病院	病棟	年	月	日
<p>司会：ケアマネジャー/MSW/退院調整 Ns など適宜</p> <p>☆自己紹介 <u>2分</u>(時間は目安です)</p>				
<p>1. 現在までの経過と治療(病棟主治医または看護師が説明。記載する必要はない) <u>3分</u></p> <p>2. 入院中の ADL とケア (看護師が説明。記載する必要はない) <u>5分</u></p> <p>① 移動と移乗、入院中のリハビリテーション</p> <p>② 食事の内容と食事介助の方法</p> <p>③ 排泄</p> <p>④ 寝具と体位交換、皮膚トラブルの有無</p> <p>⑤ 入院中の入浴・保清の方法と頻度</p> <p>⑥ 睡眠・更衣・口腔ケア・その他</p> <p>⑦ 認知機能・精神面</p> <p>⑧ 行なっている医療処置</p> <p>□ 必要な医療器具・福祉機器はあるか。 また、使い方は習得できているか</p> <p>□ 自宅に帰ってから使用する消耗品など はあるか</p>	<p>⑨ 介護指導の内容と計画</p> <p>□ 介護方法・介助方法は習得できているか</p> <p>⑩ 定時薬と頓用薬</p> <p>□ 必要な定時薬・頓用薬は処方されたか</p> <p>3. 本人・家族の希望と心配 <u>3分</u></p> <p>4. 質疑 <u>5分</u></p> <p>5. ケアプランの説明(ケアマネジャー) <u>5分</u></p> <p>6. ケアの調整 <u>5分</u></p> <p>退院日</p> <p>□ 退院後に利用する医療・介護の事業所 は退院日を知っているか</p> <p>退院後の日程</p> <p>緊急連絡先や方法</p> <p>□ 患者や家族は体調が変わった時の緊急 連絡先を知っているか</p> <p>□ 診療情報提供書と看護サマリーを用意 したか</p> <p>7. まとめ <u>2分</u></p>			

横須賀市退院前カンファレンスシートの活用について

- この退院前シートは、患者様が病院から退院して、スムーズな在宅療養生活をスタートさせることができるように、次の二つの視点から作成した多職種連携ツールです。
 - ①病院スタッフから在宅療養支援スタッフへ必要な情報が漏れなく提供される。
 - ②在宅療養支援スタッフが情報を共有することができる。
- このシートは、平成 25 年 11 月に病院で試行いただき、その後、病院スタッフや多職種のみなさんから寄せられた意見をもとに改訂しました。
- 退院前カンファレンスでこのシートをご利用いただくと次のような効果が期待できます。
 - ①在宅療養支援スタッフは、在宅療養スタートにあたり、必要な情報を忘れずに病院から聴いてくることができる。(聴き忘れ、確認漏れが減る。)
 - ②多職種が、この同じシートをもっていると、カンファレンスがスムーズに進む。
 - ③病院スタッフは、在宅療養支援スタッフに伝える内容の準備ができる。
 - ④未経験スタッフも、このシート活用でカンファレンスをイメージできる。

病院スタッフのみなさんへ

- この退院前カンファレンスシートは、在宅療養支援スタッフが知りたい情報をまとめたもので、カンファレンスをスムーズかつ効率的に行うために、できる限り事前にカンファレンスシートに記入しカンファレンス参加者に情報を提供してください。
- また、カンファレンスができない場合も退院前カンファレンスシートを活用し、在宅療養支援スタッフへの情報提供に努めてください。

在宅療養支援スタッフのみなさんへ

- 退院前カンファレンスに参加される場合に、この退院前カンファレンスシートをご活用ください。活用は自由です。
- この退院前カンファレンスシートは、みなさんが病院から入手する情報に漏れないようにするためのチェックシートです。病院スタッフから事前に情報提供があった場合は一読して参加してください。
- 横須賀市ホームページからダウンロードできますので、横須賀市ホームページのトップページから[カンファレンスシート](#)で検索してください。

このカンファレンスシートが関係職種のみなさんの連携のために少しでもお役に立つことを願っています。

企画・作成 地域ケア会議及び在宅療養連携会議入退院・在宅療養連携専門部会
事務担当 横須賀市民生局福祉こども部地域福祉課
〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地
TEL 046-822-4332 FAX 046-827-8158
E-mail iryouseisaku@city.yokosuka.kanagawa.jp



[退院前カンファレンスシートダウンロード](#)

https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2610/zaitaku/conference_sheet.html

様 退院前カンファレンスシート		日時
病院名	病棟	Zoom ID パスワード
【病院側】		
1	病名	
2	経過	
3	入院中のADL	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器(装具含む)
4	移動	<input type="checkbox"/> 車椅子 <input type="checkbox"/> 寝たきり
5	入院中の清潔	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助
6	食事介助 食事形態	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助 主食: <input type="checkbox"/> 米飯 <input type="checkbox"/> 粥 <input type="checkbox"/> ミキサー粥 副食: <input type="checkbox"/> 常食 <input type="checkbox"/> 一口大刻み <input type="checkbox"/> 刻み <input type="checkbox"/> ミキサー <input type="checkbox"/> その他()
	口腔ケア	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 介助
	嚥下調整食の 必要性	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	水分トロミ 摂取量	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 全量 <input type="checkbox"/> 5割程度 <input type="checkbox"/> 1~3割 <input type="checkbox"/> その他()
7	排泄	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助(<input type="checkbox"/> トイレ誘導 <input type="checkbox"/> 尿器 <input type="checkbox"/> Pトイレ) <input type="checkbox"/> 全介助(<input type="checkbox"/> おむつ <input type="checkbox"/> バルン)
	下剤の有無	<input type="checkbox"/> あり() <input type="checkbox"/> なし
8	認知機能	<input type="checkbox"/> 徘徊 <input type="checkbox"/> 暴力・暴言 <input type="checkbox"/> 不潔行為 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> その他()
9	精神状況	<input type="checkbox"/> 安定 <input type="checkbox"/> 不安定
10	睡眠	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良 (薬剤使用 あり・なし) 薬品名:
11	皮膚の状況	<input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 体位交換が必要 <input type="checkbox"/> 処置あり(<input type="checkbox"/> 褥瘡 <input type="checkbox"/> 軟膏)
12	医療処置	<input type="checkbox"/> 経管栄養 <input type="checkbox"/> バルン挿入(Fr) <input type="checkbox"/> 吸引 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 必要物品()
13	介護指導内容	
14	本人・家族の 希望と心配	
15	質疑	
【在宅側】		
16	ケアプランの説明	
17	ケアの調整	<input type="checkbox"/> 退院日 <input type="checkbox"/> 退院後の日程

よこすかエチケット集

作成・改訂の経過及び Ver.4 改訂メンバー

平成 27 年（2015 年）	初版発行
平成 28 年（2016 年）	Ver.2 発行
令和元年（2019 年）	Ver.3 発行
令和 7 年（2025 年）	Ver.4 発行

Ver.4 改訂メンバー

地域ケア会議及び在宅療養連携会議
入退院・在宅療養連携専門部会

	団体名	氏名（敬称略）
1	一般社団法人 横須賀市医師会	磯崎 哲男
2	三次救急対応病院	岩澤 孝昌
3	横須賀地区ソーシャルワーカー連絡協議会	福田 朋子
4	横須賀市介護老人保健施設連絡会	上田 千恵
5	横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会	玉井 秀直
6	横三地区訪問看護ステーション協議会横須賀ブロック	大島 美夏
7	横須賀市訪問介護事業所連絡協議会	三浦 功
8	横須賀市グループホーム連絡会	比氣 祥吾
9	横須賀地区栄養士連絡協議会	村上 まさみ
10	神奈川県看護部長会横須賀支部	神崎 由美子

在宅療養多職種連携のための よこすかエチケット集 Ver.4

令和7年（2025年）3月 発行

企画 地域ケア会議及び在宅療養連携会議

発行（ご意見・ご提案の提出先）

横須賀市 民生局福祉こども部 地域福祉課

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地（消防局庁舎1階）

TEL 046-822-4332 FAX 046-827-8158

ホームページアドレス

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2610/zaitaku.html>

